

Title	邦文西洋史文獻展覽目録(池田哲郎編)
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1932
Jtitle	史学 Vol.11, No.3 (1932. 10) ,p.165(493)- 166(494)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19321000-0165

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

先づ『世界戦争後の變革』から説き起してナショナリズムの發生勃興を説き、『國際聯盟の成立及び成長』に及び、聯盟の概要を記し、次いで『歐洲』の篇にはヴェルサイユ平和條約の成立經過から、賠償問題、ルール占領、ドーズ、ヤング案、フーヴァーの支拂猶豫提唱までを説き、ロカルノ條約、不戰條約、歐洲聯合案等をも解説して、一九三二年の歐洲を概説してゐる。

その他、『北米合衆國』に於けるモンロー主義の發生變遷から、移民問題、軍縮問題に及び、更に『ソヴェートロシアの外交』を説いて日本との關係を明かにし、『中華民國』に於ける戦後の外交問題は其の全般を盡し滿洲事變に及び、その對外關係に於てやゝもすれば邦人が忘却し勝る過去の條約關係に就いて親切なる注意が促がされてゐる。凡そ最近に出版せられた邦文の著述であつて、複雑にして波瀾多き戦後の世界に對し、これ程迄に纏つた。全般的知識を與ふる便利なる、書物は他に類を見ないであらう。この點大いに著者の綜合的努力に謝すべきである。

しかし乍ら本書と雖も、史學者の立場から之を見るときは、如何にそが火急の編述であるにしても、若干遺憾に思はれない點がないでもない。先づ第一に表題の『近代』といふ文字は我等の時代の區分としては首肯し難いものである。第二に我等はパリ講和會議、ヴェルサイユ平和條約と截然區別して書きたい處であるが、外交官であつた著者は却つてパリ會議の事は記述し乍らも(二九頁以下)ヴェルサイユに講和會議でも開かれたかの如き觀を抱かしめるのである(二、一三頁、七頁、一〇〇頁)、第三に『一月十八日は曾て普佛戦争の終つた際』(二八頁)とあるけれども、このとき普

佛戦争(之は獨佛戦争といつた方がよい)は終つてゐない。第四に米國は世界に於て最も新しい國である。千七百六十三年獨立を布告して以來(一三二頁)とあるが、大戦後の諸國の獨立を認めないのは戦後を取扱つた本書としては受取れない。獨立布告のデイトは云ふ迄もなく明白なる誤である。第五に、『昨年十月に入つて英國は金本位制度の維持さへ困難』(一二五頁)『程なく十月に入つては英國の金融恐慌、兌換停止の法令となり』(六九頁)とある。大陸諸國に於ける金本位停止の魁となつたこの最も重要なデイトは二箇所迄もかく誤を傳へてゐる。最後に西曆と我が年號とが混合して使用せられてゐることは(一〇一頁その他)世間一般の慣用ではあらうが、評者自身の主張としては改むべき點である。少なくとも本書の讀者には不便であらうと思ふ。(間崎萬里)

邦文西洋史文獻展覽目錄 (池田哲郎編)

近時、書目編纂の稍流行的にまでなりつゝあることは學界のたみに喜ばしい現象である。表題の目錄は昨年十月下旬東北帝國大學法文學部に於ける同大學史學會の展覽目錄である。而して當目錄は明治三十年以前(十九世紀の刊行に係るものに限定例言)せられてゐるが、之に展覽し得ざりしものをも加へ、年代をも擴張して、漸次追補し完全なる文獻目錄を作るに於ては、修史に基づく本邦西洋史學の發達を大觀するの助となるであらうし、將來の學者に對し眞に學問的基礎を與ふることともなるであらう。

今後の西洋史學に正しき道を踐ましむべき礎が東北大學に於て

試みられたことは甚だ有意義のこととしてこゝに記録せらるべきである。なほ本目録には『支那上代風俗畫資料展覽目録』が附載せられてゐる。(間崎万里)

化學標準用語

(内閣資源局編纂
工政會出版部版)

今日高度の文明國であつて我が國の如く、國語の、殊に外來語の混在混用せられてゐる國は恐らくないであらう。殊に我等の西洋史關係用語に於てそれが一層甚しい。自分も他日之については管見を述べて見たいと思つてゐるが、最も驚かされるのは、同一新聞社でありながら大阪に於てはオリソピック、東京に於てはオリムピックが使用せられ又ジュネーヴとゼネヴァは大阪と東京で異なるのみか、東京市内でもジュネーヴ系とゼネヴァ系の新聞があつて、國語の上に於て二つの日本を現出してゐるの有様である。

この際、内閣資源局が他に先んじて化學標準用語を公定したことは、洵に事宜に適したもので、新しい歴史の領域に於て益々使用せられんとする是等の用語についても、我等は注意を怠るべきではない。四六版一二六頁價四十錢。(間崎万里)

中宮寺天壽國曼茶羅之研究

(中宮寺之研究、第四册)大和、鶴故郷會發行

推古天皇三十年、聖德太子が、薨去されるに及び、その妃橘大

女郎が、痛く、悲しんで、推古天皇に、奏して、太子の往生し給ふた天壽國の有様を、二張の繡像に、造らしめ、これを、追懷の記念となされたことは、史上有名のことである。これ即ち、中宮寺の天壽國曼茶羅の起縁である。併し、現存する、斷片的遺物では、十分に、原形の構圖を、精細に、知るを得ないのであるが、幸に、その繡張の銘文が、全部、古寫本として、保存されてゐる。偕て、問題の中心は、天壽國とは、抑も、希求淨土の理想的表現なりや、それとも、法王帝説の註解によつて、單に天國を、指せるのみであるか、或は、彌勒の信仰が、彌陀の信仰よりも、起原が、古いといふ事實によつて、これを、彌勒の兜率天なりとするか、古來、幾多の論考がなされたが、要するに、以上の三説を以て、代表される。而して、本書の第一門は、主ら、この天壽國に關する、諸氏の論考であつて、その内容は、左の通りである。

第一門天壽國曼茶羅之研究

廣島文理科大學教授

太子の御信仰と天壽國曼茶羅の銘文……………福島 政雄

京都帝國大學教授

天壽國曼茶羅と聖德太子の教育思想……………高橋 俊乘

臨濟宗大學教授

天壽國とは何ぞや……………大屋 徳城

藥師寺院主

天壽國曼茶羅攷……………橋本 凝胤

而して、本書の第二門は、主ら、中宮寺御本尊之研究であつてこれも、諸説紛々として、決してゐないが、要するに、如意輪觀